

令和8年度 入学式

学校教育目標『夢をはぐくむ学校』

目指す学校像

地域から信頼され、地域とともに歩み、
生徒・教職員一人ひとりの自己実現・Well-beingが図れる学校

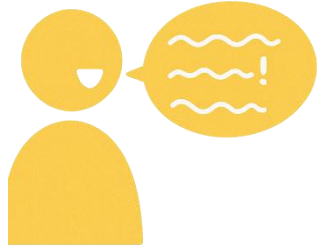
さいたま市立片柳中学校

経営方針 (今年度の重点・努力点)

- 1 学校が定めた5つの資質・能力の育成を通じた真の学力の向上
- 2 自己肯定感の向上を通じた、心豊かな生徒の育成
- 3 コミュニティースクールを核とした地域と一体となった
教育活動の展開
- 4 安心・安全な教育環境の整備
- 5 持続可能な新しい学校の在り方を求める教職員の育成

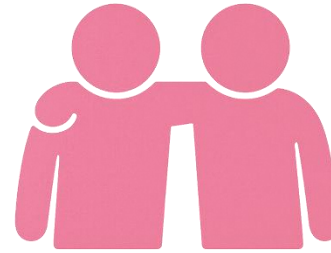
育成したい5つの資質・能力と到達目標

言語能力



- たくさんの言葉や表現を知り、状況や相手に合った言葉を使うことで、自分の気持ちや考えをはっきり伝えたり、相手の話を正しく理解したりすることができる。
- 文章や会話の要点をとらえ、簡潔に自分の言葉でまとめることができる。
- 文章や相手の言葉の内容や意図を的確に理解することができる。

コミュニケーション能力・他者と協働する力



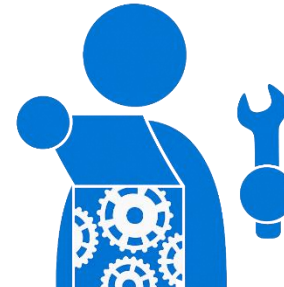
- 他者と積極的に関わって、自分の気持ちや意見を伝え合い、協力して新しいアイデアを創り出すことができる／新たな提案ができる。

問題発見・解決能力



- 自分の理想とするイメージ図や完成図に現状何が足りないかを見つけ出すことができ、解決策を出すことができる。また、学習内容が実社会の生活の中でどこに活かされているかを考えることができる。

自己調整力



- 振り返りを活用しながら、自分の強みと弱みを理解し、与えられた期間内でどうすればいいかを考え、粘り強く取り組むことができる。

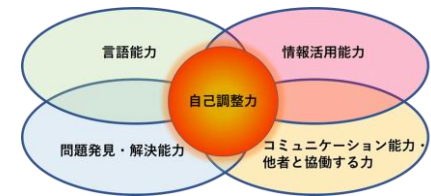
情報活用能力



- 自分で調べ方（実践ふくむ）を選択しながらさまざまな情報をまとめて、分析することができる。また、その情報が正しい判断ができる。
- 得られた情報を他者が理解できるようにまとめることができる。

資質・能力のイメージ

『自己調整力』を中心に据え、4つの資質・能力を育成するに伴って自己調整力も育成されていく、また自己調整力を発揮することによって、4つの資質・能力も育成されていくと考えます。



地域のお祭り



フィールドワーク



未来のしごとを考える (PwC)



職業体験 (未来くるワーク)



地域や企業等と協力し
生徒の成長を促すため
教育活動の充実を図ります



教科等横断的な学び
探究的な学びの実践



伝統文化体験等



ボランティア体験



多様な出前授業

令和8年度の新たな取組について

生徒の主体性と自己調整力を高める 「スキガクタイム」と「デザインタイム」の実施

「スキガクタイム」

- 毎週火曜日・木曜日の朝学習の時間と、第2週金曜日の帰りの学活で行う学習活動
- 「定期テストや単元テストに向けた学習」や「学校で習った内容や関心のある事柄について、さらに深掘する学習」を行っていく時間

「デザインタイム」

- 月末の金曜日の帰りの学活で行う学習活動
- 1か月間の学習を振り返るとともに、翌月の学習計画を立てる時間

『学校部活動』から『地域クラブ活動』へ



さいたま市 PR キャラクター

～地域とともにつくる 部活動の新しいカタチ～

R7.10月発行

vol.1

令和4年12月にスポーツ庁および文化庁から部活動改革ガイドラインが公表され、中学校の部活動改革に向けた取組が全国で始まっています。

【部活動改革の必要性】

- ・ 少子化により、学校部活動を現在と同じ体制で運営することが難しくなっており、学校や地域によっては存続が厳しい状況である
- ・ 学校の働き方改革が進む中、教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、より一層厳しくなる



(参考) スポーツ庁

さいたま市では、国の動向も踏まえ、本市独自の部活動の新しいカタチについて、令和5年度からモデル校で実証検証するとともに、「さいたま市地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備研究協議会」を設置し、様々な検討・取組を行っています。

※さいたま市地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備研究協議会の主な委員：学校関係者、地域・保護者の代表、スポーツ団体等



さいたま市はなぜ部活動の新しいカタチについて検証をすすめているの？

- ・子どもたちが、地域の中で自分の興味に応じてスポーツや文化活動を楽しめる環境を整えるため
- ・生涯スポーツ・文化活動の視点から、多世代が気軽に活動できる持続可能な環境を整えるため



今までと何が変わるの？

【1週間の活動イメージ】

※ 土日はどちらか1日活動

	月	火	水	木	金	土	日
現在→	部活動	部活動	休	部活動	部活動	部活動	休
今後→	部活動	部活動	休	部活動	部活動	地域クラブ活動	休

まずは、休日から地域クラブ活動を目指します！

さいたま市は、まずは、休日の地域クラブ活動に着手することを目指しています。



「学校部活動」と「地域クラブ活動」って何が違うの？

学校部活動		地域クラブ活動
学校	主体	地域
学校施設	場所	学校施設の利用が中心※
教職員、部活動指導員 (部活動サポーター)	指導者	兼業が認められた教職員 地域の指導者 等

※ 将来的には、多様な場所で活動することを想定

現在、ここまでの段階には至ってありませんが、さいたま市としては、このような方向性を目指しています。

片柳中学校としての取組

市教育委員会から部活動地域展開モデル校として指定
○まちクラブ「かたやなぎクラブ」を中核とした
『まちクラブ連携モデル』の推進

目的

- 生徒がやりたい部活動を継続できる環境づくり
- 生徒がより専門的指導を受けられる環境づくり
- 教員が指導したい部活動を継続できる環境づくり

片柳中部活動
平日3～4日 2時間程度
教員、部活動指導員、部活動サポーター



かたやなぎクラブ
土日祝日 3時間程度
統括団体からの派遣コーチ(教員、部活動指導員)

部活動及びクラブの現状と課題

教員、保護者、生徒のマインドチェンジが必要
×やらされる部活 ×やってもらって当たり前

- 生徒がやりたい部活動を継続できる
環境づくり
- 生徒が専門的指導を受けることができる
環境づくり
- 教員が指導したい部活動を継続できる
環境づくり

【課題】

- 生徒数減少に伴う部活動自体の存続の問題
- 統括団体との手続き上の煩雑さに関する問題
- 平日、土日の指導者間の連携の問題 など



最後に…

学校と地域、保護者や家庭が、共に手を取り合い高めあい、生徒にとって充実した3年間となることを願っております。
よろしくお願ひします。